

# 浮泥防除型覆砂によるタイラギ増殖試験

有明海研究所

## 背景、目的

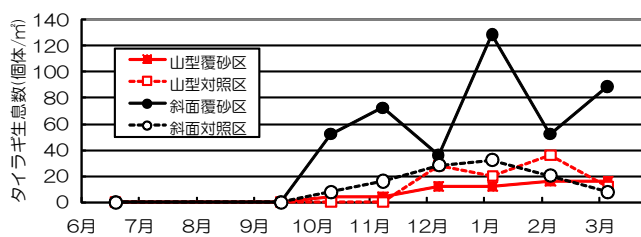
有明海におけるタイラギの増殖手法を開発するため、これまで課題とされた浮泥の堆積が防除される形状の覆砂を実施し、タイラギの生息状況や浮泥の堆積状況からその効果を検討しました。

## 成果の概要

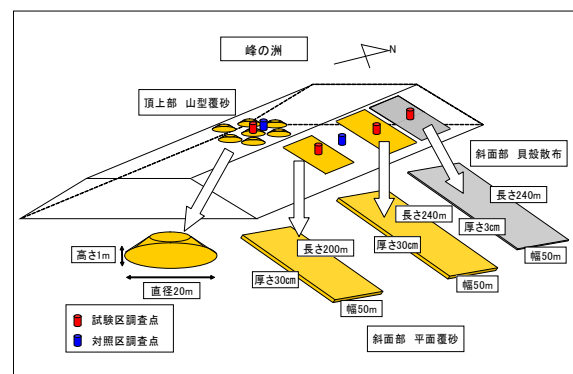
### (1) タイラギの生息状況

有明海の峰の洲漁場において、頂上部に山型覆砂、斜面域での平面覆砂（以下斜面覆砂）及びサルボウ殻散布を実施し、タイラギの生息量を調べました。その結果、斜面覆砂区では、タイラギ稚貝の生息密度が対照区の約5倍となりました。

また、潜水器漁業者による試験操業を行った結果、斜面覆砂区において、一日の推定漁獲量が貝柱重量で9.2kgと、この時期に行われていた潜水器漁業と同等の水揚げとなりました。



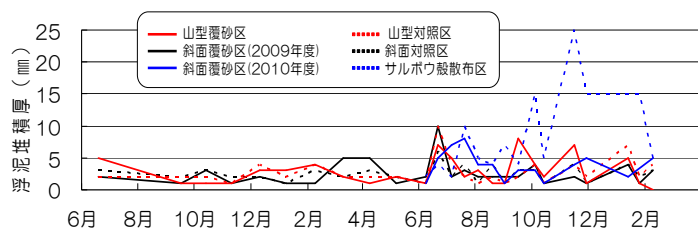
タイラギ生息密度の推移



峰の洲漁場改善手法模式図

### (2) 浮泥の堆積状況

上記覆砂域における浮泥の堆積状況を調べたところ、山型覆砂区、斜面覆砂区では、対照区を含め全ての調査点で浮泥の堆積は少なく、概ね10mm以下で推移しました。一方、サルボウ殻散布区では、浮泥堆積厚が最大25 mmとなりました。



浮泥堆積厚の推移

### (3) 浮泥防除型覆砂の効果

斜面覆砂ではタイラギの生息数が大幅に増加し、試験操業においても多数のタイラギを採取できたことから、漁場としての利用の可能性が示唆されました。

一方、峰の洲の頂上部で実施した山型覆砂と斜面で実施したサルボウ殻散布区では、タイラギの生息が確認できず、効果が低いと考えられました。